

2009

The Second quarter business report

株主通信

第14期 第2四半期決算のご報告

2009.4.1 2009.9.30

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 毎年6月

期末配当基準日 3月31日

中間配当基準日 9月30日

公告方法 電子公告

(当社ホームページに掲載)

[アドレス] <http://www.broadmedia.co.jp/>

ただしやむを得ない事由により電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

[郵便物送付先] 〒168-8507
東京都杉並区和泉2-8-4

[電話お問い合わせ先]
(フリーダイヤル) ☎0120-288-324

取次所	株主名簿管理人取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店	特別口座管理機関取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
-----	--	---



Broadmedia



ブロードメディア株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂8-4-14 青山タワーブレイス6F



ブロードメディア株式会社

証券コード:4347

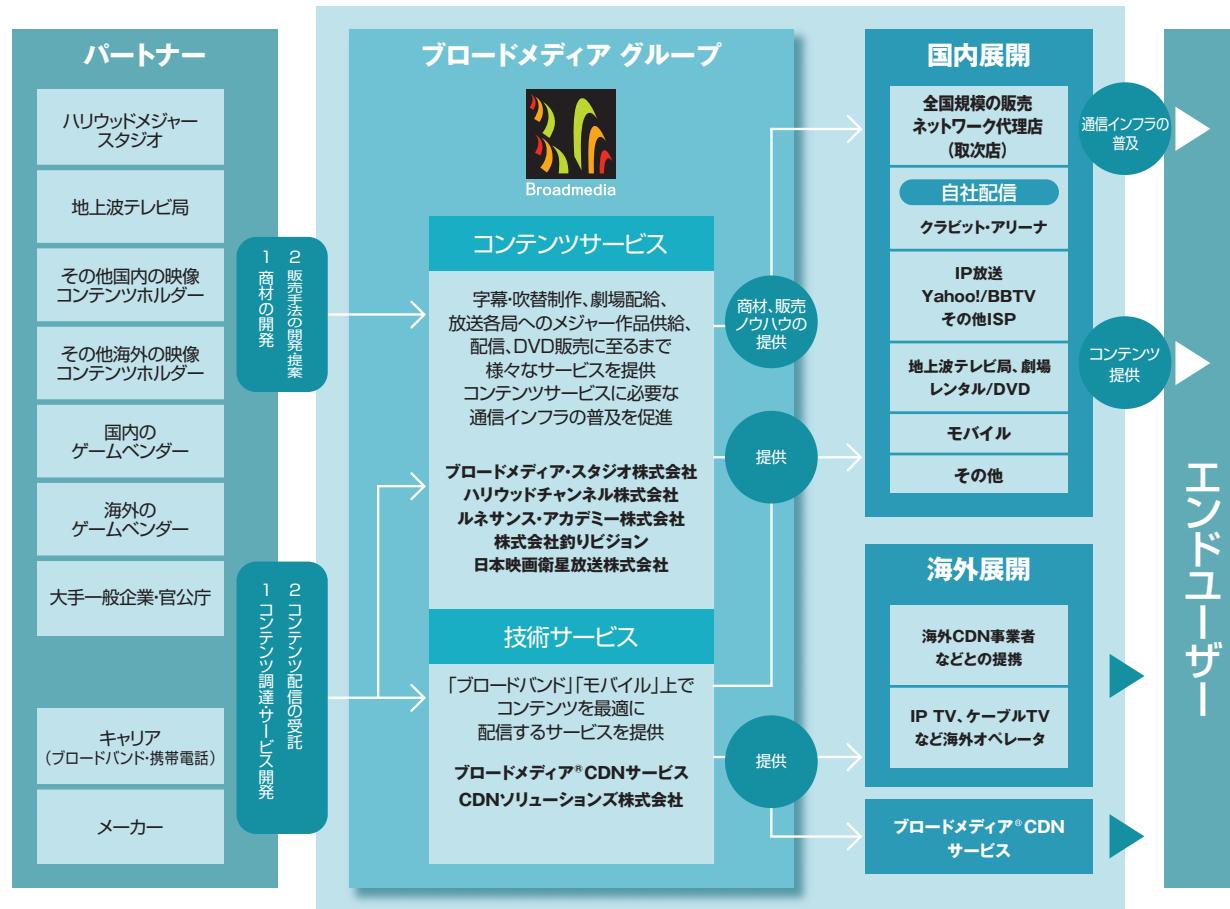
CONTENTS

- 01 ブロードメディアビジネスモデル
- 02 トップインタビュー
- 05 部門別営業の概況
- 07 トピックス
- 11 四半期連結財務諸表(要約)
- 13 連結決算ハイライト
- 14 会社データ

強み

「技術プラットフォームを持つコンテンツ流通事業者」として、「コンテンツの調達能力」と、「それを安定的にかつ高品質で配信する技術」の双方を併せ持つ企業は、業界内でも稀有な存在であり、それが強みになっています。

ブロードメディアグループのビジネスモデル概要



黒字回復の実現が見込まれる中、来期以降の飛躍を目指し、準備を進めています。

代表取締役社長 橋本 太郎



Q1 当期の経営課題と、上半期における取り組みの成果についてお聞かせください。

A) 昨年秋以降の景気後退は、一部で底打ちの兆しを示しているものの、投資抑制傾向や、雇用の悪化および個人消費の低迷によるデフレ色が強まっており、依然として本格回復の見通しが立っていない状況にあります。

そうした中で当社は、当期の黒字化を必達目標とする取り組みを進めています。上半期においては市況の悪化を受け、コンテンツサービス、技術サービス、ネットワーク営業のいずれも前年同期比で減収を余儀なくされましたが、黒字化については、営業利益、経常利益、純利益の全てで達成することができました。通期業績においても、これを維持・拡大できる見通しとなりました。当社は「コンテンツサービスの営業力強化」と「技術サービスの芽を摘まない」の2つを中長期的な経営課題としておりますが、その課題をこなしながら黒字化を実現できたことは、上半期の大きな成果であったと思います。

黒字化を具体的に説明しますと、コンテンツサービスの各事業が収益改善を果たしたことに加え、従来、技術サービスにおける損失の主要因であったGクラスター・グローバル社が連結グループから離脱したことや全社的に販管費を削減したこと等により実現しました。結果として当初予想を大幅に上回る営業利益を計上し、更に持分法による投資利益の計上および持分変動益の計上等がこれに加わり経常利益と純利益を押し上げました。

当上半期の連結業績は、売上高51億68百万円（前年同期

比17.8%減)、営業利益3億38百万円(前年同期は5億24百万円の営業損失)、経常利益3億60百万円(同5億81百万円の経常損失)、四半期純利益2億82百万円(同3億88百万円の四半期純損失)となりました。

※各部門別業績の詳細についてはp5~6をご参照願います。

Q2 ネットワーク営業本部をコンテンツサービス本部に統合した組織改編についてご説明願います。

A) 当社は、2009年10月1日付で、コンテンツサービス本部にネットワーク営業本部を統合しましたが、少なくとも当期中は、セグメント開示上、引き続きネットワーク営業を独立したセグメントとして業績数値を開示いたします。

過去にさかのぼるとネットワーク営業部門は、当社が衛星放送のチューナー・アンテナの無料レンタルによる事業展開を手掛けていた時に、その会員制サービスの普及促進を担っていたユニットでした。言わば、ソフト(コンテンツパッケージ)とハードをセットにしたサービスの販売促進を行ってきたわけですが、その後の事業内容の変遷に伴い、ブロードバンド回線および携帯電話サービスの代理店販売を主たる業務として活動してまいりました。今後も可能な範囲で営業を継続してまいりますが、今回、部門統合を実施した背景には、単にコンテンツサービスの営業力を強化する狙いだけではなく、当社が今後提供していく新たなコンテンツサービスにおいて、旧ネットワーク営業部門がその重要な役割を担うという意図があります。そこでは、これまでのネットワーク営業において培われてきたノウハウが活用されることになると思います。当社では現在、新たな事業展開に向けて、部門統合による組織の一体化と合理化を図りながら、準備を進めております。

Q3 ルネサンス・アカデミー株式会社の子会社化についてお聞かせください。

A) ルネサンス・アカデミー株式会社は、全国広域通信制・単位制普通科高校である「ルネサンス高等学校」の運営を事業目的として、当社および株式会社ワオ・コーポレーション他の出資により、2005年10月に設立されました。当社はこの度、2009年9月に同社の株式を追加取得し、連結子会社としました。

ルネサンス高等学校は、幅広い学習コースをブロードバンドによるネット教育(PCや携帯電話を用いたe-learning)を通じて生徒に提供しており、在籍生徒数は990名(2009年11月20日現在)を数えます。

当社は、配信技術の強みを活かせるコンテンツサービスとしてネット教育に着目し、将来の事業展開につながる大きなテーマと捉えて、これに注力しています。また、ナショナルジオグラフィック社による膨大な教育コンテンツの教育現場への導入を含む、質の高い教育コンテンツの開発に取り組んでまいります。

今の世の中において、「教育」ほど重要な位置を占めている社会テーマは他にあまりないと思います。重要性を誰もが認識しているのに、大きな問題が解決されず、事態がますます深刻化しているからです。特に、教育環境とのミスマッチにより、毎年多くの生徒がドロップアウトし、再び学んでいく機会を持たないという現実、生徒にとって不幸であると同時に、甚大な社会的損失でもあります。また、より積極的に、通常の学校教育よりもオープンで自由な学習スタイルを提供する学校が求められていると思います。同校では、仕事をしながら学んだり、専門性の高い教育と高校教育を同時に受けるダブルスクールに力を入れており、大学に進学する生

徒も大勢います。当社はルネサンス・アカデミー株式会社を通じて、更にネット教育を推進していく予定です。

Q4 通期の見通しについてお聞かせください。

A) 事業環境については、下半期も流動的な状況が続き、コンテンツサービスの各事業やCDNサービスにおいても苦戦が続くものと予想しています。また、下半期に予定していた営業利益が一部前倒して上半期に計上されたこともあって、下半期の業績に関しては、慎重に考える必要があると思っています。下半期は、既存事業とその延長線上にある事業を着実に手掛け、通期における売上・利益目標の達成に向けて、引き続き全社的な努力を重ねてまいります。

なお当社は、保有していた株式会社ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング全株式の売却を決定し、2009年8月10日付で売却先である株式会社ジュピターテレコムとの契約を締結しました。本件による有価証券売却益14億55百万円は、株式譲渡日である2009年10月1日に計上されたため、第3四半期会計期間における特別利益となりました。

これを含め、通期の連結業績については、売上高100億円、営業利益4億円~4億50百万円、経常利益4億50百万円~5億円、当期純利益16億円を見込んでいます。

Q5 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A) 当社は、株主の皆様に対する安定的な配当の実施を基本方針としておりますが、当期においては内部留保を優先させていただきたいと考えており、中間配当の実施を見送らせていただきました。株主の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、期末配当につき

ましても現時点では無配を予定しておりますが、今後、下半期における業績および来期の資金需要を見極めた上で慎重に検討してまいりたいと存じます。

当社は、2011年に予定されている情報通信法の施行等により生じると思われる、かつてない市場の変化の中で、大きなビジネスチャンスを掴もうと努力しています。そこで勝ち残っていくためのカギとなる新たな事業を、来期から本格的に展開させていくつもりです。黒字を維持しながら、将来のための準備を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、長期的な視点で当社の将来性にご期待いただき、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「技術サービスの芽を摘まない」という方針を維持しながら黒字化を達成。

部門	主要な商品・製品およびサービス	売上高の推移(単位:百万円)	売上高	営業の概況	売上高構成比
----	-----------------	----------------	-----	-------	--------

コンテンツサービス

- 映像サービス
プロダクション事業/
ディストリビューション事業/
映画配給事業/ブロードバンド配信事業
- 放送サービス
CS放送サービス
委託放送事業「釣りビジョン」
- モバイルサービス
ハリウッドチャンネル/
速報!ハリウッド★スクープ/
海外ドラマ★DX/その他
- 教育サービス
ルネサンス高等学校
- その他
ナショナルジオグラフィック事業
みんなのフィットネス

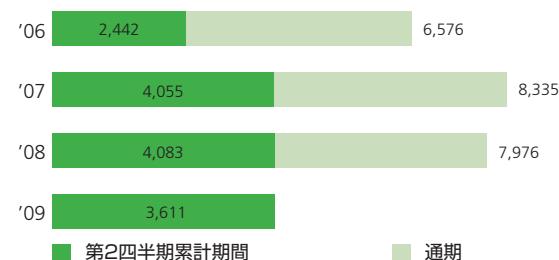
ブロードバンドおよび携帯向けの
コンテンツ配信

映画配給およびテレビ放映権販売

字幕・吹替等の制作

CS放送およびCATV向けの
番組制作および放映

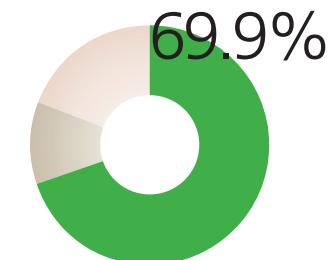
CS放送関連サービス



3,611百万円
(前年同期比11.6%減)

売上高は、株式会社釣りビジョンや日本語字幕・吹替制作の増収があったものの、テレビ放映権販売や映画配給等の減収により、前年同期と比べ11.6%減少し、3,611,352千円（前年同期は4,083,767千円）となりました。

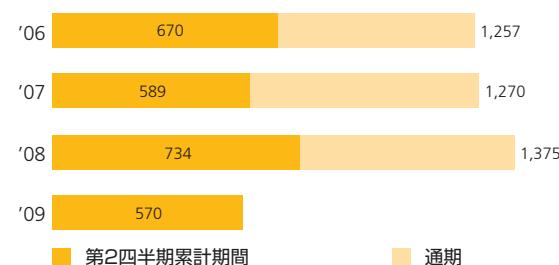
営業利益は、株式会社釣りビジョン、テレビ放映権販売等の増益に加え、ブロードバンド配信や映画配給、およびナショナルジオグラフィック事業の収益改善等により、前年同期と比べ16.9%増加し、328,949千円（前年同期は281,471千円）となりました。



技術サービス

- CDNサービス
- その他

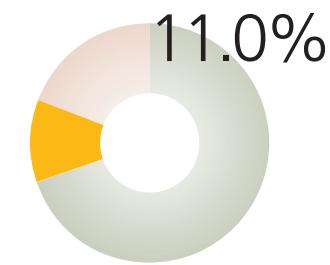
コンテンツデリバリーネットワーク
サービスの提供



570百万円
(前年同期比22.3%減)

売上高は、顧客企業の経費削減等が影響し、CDNサービスの売上高が減少したことにより、前年同期と比べて22.3%減少し、570,031千円（前年同期は734,010千円）となりました。

営業利益は、Gクラスタ・グローバル株式会社が連結グループから離脱したこと等により、16,646千円（前年同期は812,882千円の営業損失）となりました。

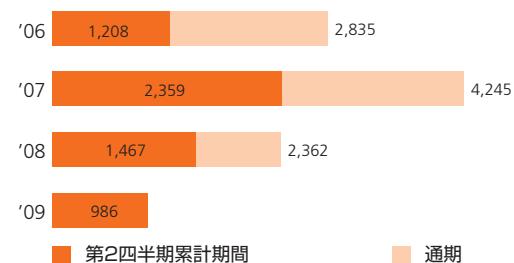


ネットワーク営業

- ブロードバンド回線販売
- 携帯電話サービスの取扱い
- その他

ブロードバンド回線サービスの
加入勧誘および申込取次

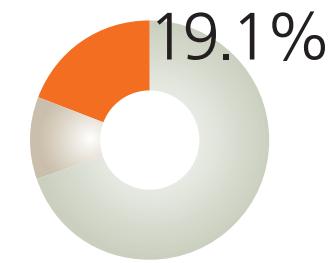
携帯電話サービスの加入勧誘、
申込取次および携帯電話端末の
販売代理店業務



986百万円
(前年同期比32.7%減)

売上高は、個人消費の冷え込み等の影響を受け、ブロードバンド回線の販売や携帯電話サービスの取り扱い件数が減少したことにより、前年同期と比べ32.7%減少し、986,969千円（前年同期は1,467,182千円）となりました。

営業利益は、上記減収の影響により6,945千円の営業損失（前年同期は6,896千円の営業利益）となりました。



● content services
コンテンツサービス

ルネサンス・アカデミー株式会社の子会社化

教育サービス

2009年9月28日付でルネサンス・アカデミー株式会社の株式を追加取得し連結子会社といたしました。

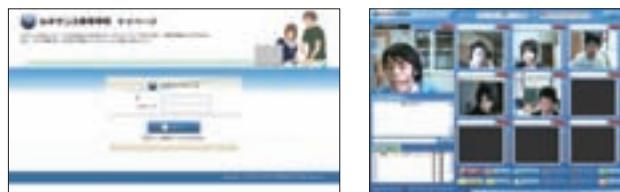


ルネサンス高等学校 ～全国広域通信制・単位制普通科高校～

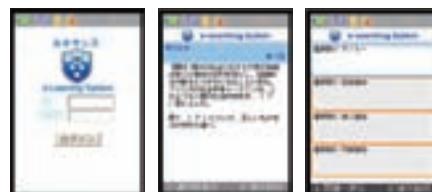
2005年10月に会社設立（開校は2006年4月）以来、当社と大手学習塾「能開センター」を運営する株式会社ワオ・コーポレーションとが主要株主となって運営

ブロードバンドを利用した幅広い学習コースとネット教育 携帯電話やPCを用いたe-learningを生徒に提供

[ライブレッスン]



[携帯を利用したレポート提出]



- ・個別指導を行う様々な専門スクールと提携（高校生ダブルスクール）
- ・ナショナルジオグラフィックコンテンツの教育現場への導入促進
- ・質の高い教育コンテンツの開発

● technology services
技術サービス

技術サービスの強化について

CDN（コンテンツ・デリバリー・ネットワーク）

CDNとは、サイトのアクセスが集中した場合に、サーバへのアクセス集中を避けて、コンテンツを安定配信することが可能な「負荷分散」技術サービスを意味しております。ストリーミングなどの大容量・大規模配信に強みを持っております。

「ブロードメディア[®] CDN P2P powered by PPLive（仮称）」のライブ配信実証実験

9月11日

JAXAによる
HTV/H-IIB
ロケット打上げ



©JAXA

10月4・5日

日本最大の公式
テニス トーナメント
『楽天オープン2009』



10月24・25日

史上最大の
ビジュアル系
ロックフェスティバル
『V-ROCK FESTIVAL '09』



土屋 アンナ

the GazettE

本サービスの主な特徴

- ・全国／大規模なライブ配信を行うイベントにおいて、サーバに負荷なく安定的な配信が可能
- ・長年CDN事業で培ったノウハウと、世界最大規模のP2P技術を融合させ、高品質・低価格でサービス提供を予定

※PPLiveとは、シナキャスト社が提供するP2Pサービスの名称です。

● content services
コンテンツサービス

コンテンツ配信のリーディングカンパニーへ着実に前進

映画配給事業

2009年10月24日より『REC／レック2』、11月7日には『ファイナル・デス・ゲーム』を公開いたしました。
2010年3月には、中谷美紀・大森南朋が主演の『スイートリトルライズ』などの公開を予定しております。

2009年度公開作品

5月8日公開



© 2008 Talentoid International Ltd. All Rights Reserved.

命を懸けた義兄弟の契り



9月18日
完全版
DVD・BD
同時発売

8月1日公開



© 2008 Emperor Motion Picture(International)Limited, Warner China Film HG Corporation & BNJ Armor Entertainment Limited. All Rights Reserved.

香港映画界史上初！
ハリウッド映画をリメイク

びあ満足度ランキング2位

2010年2月19日
DVD発売予定

8月22日公開



© 2007 Columbia Pictures Industries, Inc. All Rights Reserved.

サム・ライミ プロデュース
全米初登場No.1作品！

2010年2月3日
DVD・BD 同時発売予定

● content services
コンテンツサービス

「ナショナル ジオグラフィック」公式日本語サイトの展開

ナショナル ジオグラフィック公式日本語サイト

ナショナル ジオグラフィック公式日本語サイトを通じて、「Inspiring People to Care About the Planet」のミッションを実現し、日本、ひいては世界の文化発展に寄与していきたいと考えています。

2009年9月3日より「地球」カテゴリ追加

「地球の内部」「地球の表面」「変わり続ける地球」「地球の大気」「地球クイズ」の5つのコンテンツを、ダイナミックな写真を通して、わかりやすくお伝えします。



<http://www.nationalgeographic.co.jp>

四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 2009年9月30日現在	前連結会計年度末 2009年3月31日現在
[資産の部]		
POINT 1 流動資産	4,715,659	5,245,095
POINT 2 固定資産	3,893,346	3,591,336
有形固定資産	518,404	413,804
無形固定資産	555,438	323,546
投資その他の資産	2,819,502	2,853,985
資産合計	8,609,006	8,836,431
[負債の部]		
POINT 3 流動負債	2,666,715	3,223,871
固定負債	437,278	341,692
負債合計	3,103,994	3,565,564
[純資産の部]		
株主資本	5,434,999	5,152,771
資本金	2,666,633	2,666,633
資本剰余金	2,270,490	2,270,490
利益剰余金	497,875	215,647
評価・換算差額等	△321,860	△310,981
少数株主持分	391,872	429,076
POINT 4 純資産合計	5,505,011	5,270,867
負債純資産合計	8,609,006	8,836,431

四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 2009年4月1日～ 2009年9月30日	前第2四半期連結累計期間 2008年4月1日～ 2008年9月30日
POINT 5 売上高	5,168,353	6,284,960
売上原価	3,005,595	4,076,230
売上総利益	2,162,757	2,208,729
販売費及び一般管理費	1,824,107	2,733,244
POINT 6 営業利益又は営業損失(△)	338,650	△524,514
営業外収益	73,639	52,192
営業外費用	51,571	108,871
POINT 7 経常利益又は経常損失(△)	360,718	△581,193
特別利益	55,627	27,115
特別損失	65,281	110,666
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	351,064	△664,744
法人税、住民税及び事業税	38,278	134,891
法人税等調整額	△1,216	△684
少数株主利益又は少数株主損失(△)	31,774	△410,678
POINT 8 四半期純利益又は四半期純損失(△)	282,227	△388,274

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 2009年4月1日～ 2009年9月30日	前第2四半期連結累計期間 2008年4月1日～ 2008年9月30日
POINT 9 営業活動による キャッシュ・フロー	672,181	408,395
POINT 10 投資活動による キャッシュ・フロー	△248,909	△497,417
POINT 11 財務活動による キャッシュ・フロー	△511,449	△552,793
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△319	△2,532
現金及び現金同等物の 増減額	△88,495	△644,348
連結の範囲の変更に伴う現金 及び現金同等物の増減額	—	15,752
現金及び現金同等物の 期首残高	1,345,105	1,975,888
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,256,609	1,347,291

四半期連結財務諸表(要約)

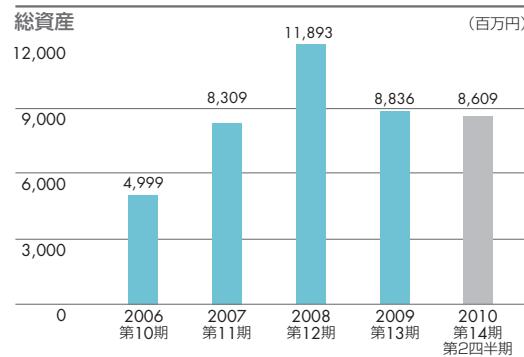
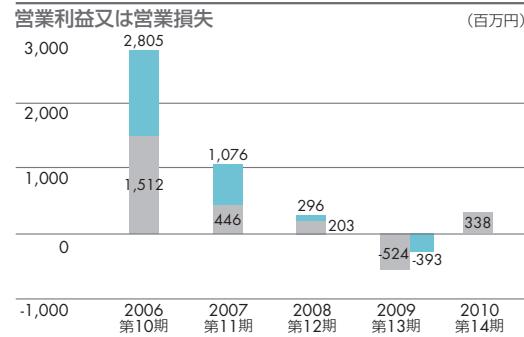
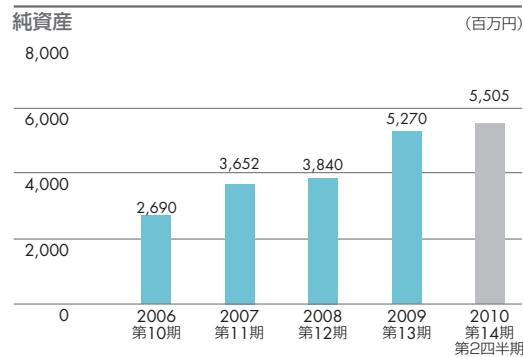
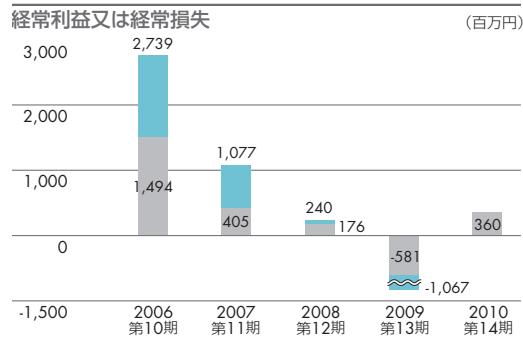
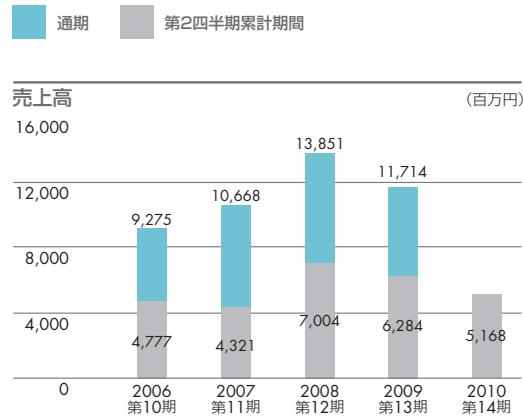
POINT

- 流動資産**
前連結会計年度末に比べて529百万円減少いたしました。これは受取手形及び売掛金が減少したこと等によりです。
- 固定資産**
前連結会計年度末に比べて302百万円増加いたしました。これはソフトウェアの取得等により無形固定資産が増加したこと等によりです。
- 流動負債**
前連結会計年度末に比べて557百万円減少いたしました。これは買掛金や短期借入金が減少したこと等によりです。
- 純資産**
四半期純利益282百万円計上したこと等により、前連結会計年度末に比べて234百万円増加いたしました。
- 売上高**
前年同期と比べ1,116百万円減少いたしました。市況の悪化等の影響を受け、3つの事業セグメント全てにおいて売上高が減少したことによるものです。
- 営業利益**
前年同期と比べ863百万円増加いたしました。これは、コンテンツサービスの各事業において収益が改善されたことや、前年同期において多額の営業損失を計上していたGクラスタ・グローバル株式会社が連結グループから離脱したこと等が主な要因です。
- 経常利益**
営業利益の計上に加え、持分法による投資利益の増加等により、前年同期と比べ941百万円増加いたしました。
- 四半期純利益**
経常利益の計上に加え、持分法による投資利益の増加等により、前年同期と比べ670百万円増加いたしました。
- 営業活動によるキャッシュ・フロー**
税金等調整前当期純利益を351百万円計上したことに加え、売上債権の減少等もあり、営業活動によるキャッシュ・フローはプラス672百万円となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー**
投資活動によるキャッシュ・フローは、マイナス248百万円となりました。ソフトウェア等固定資産の取得に174百万円、子会社株式の追加取得に136百万円支出いたしました。一方、投資有価証券の売却により69百万円の収入がありました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー**
短期借入金の残高が468百万円減少したこと等により、財務活動によるキャッシュ・フローは、マイナス511百万円となりました。

連結決算ハイライト

会社データ

(2009年9月30日現在)



会社概要

社名 ブロードメディア株式会社
 英文社名 Broadmedia Corporation
 設立 1996年9月5日
 資本金 2,666,633千円
 従業員 96名
 インターネットホームページ
<http://www.broadmedia.co.jp/>

取締役および監査役

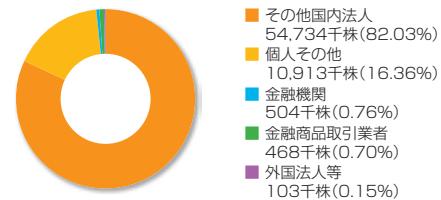
代表取締役社長 橋本 太郎
 取締役 加納 彰
 取締役 久保 利人
 取締役 中村 大伸
 取締役 波田 一夫
 常勤監査役 浦沢 武士
 監査役 土橋 康成
 監査役 小林 樹
 監査役 白石 文人

※ 浦沢武士、小林樹および白石文人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株式の状況

発行可能株式総数	128,000,000株
発行済株式の総数	66,723,516株
株主数	4,851名

所有者別株式分布



大株主

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
SBIホールディングス株式会社	31,512	47.23
SBBM株式会社	16,200	24.28
BMホールディングス株式会社	5,684	8.52

主な子会社



ブロードメディア・スタジオ株式会社

<http://www.bmstd.com/>

外国映画および外国テレビシリーズのテレビ放映権の販売、日本語版制作(字幕・吹替)、DVDビデオの権利仕入・発売・プロモーション、劇場配給、映画宣伝等をしております。

設立 2000年8月
 所在地 東京都中央区



ハリウッドチャンネル株式会社

<http://www.hollywood-ch.com/>

携帯電話向け映画情報提供。映画情報やハリウッドの最新ニュースを配信しております。また、待ち受け画像や着メロだけでなく、海外ドラマやアジア情報など、ハリウッドチャンネル独自のコンテンツも数多く掲載しております。

設立 2003年4月
 所在地 東京都中央区



ルネサンス・アカデミー株式会社

<http://www.r-ac.jp/>

全国広域通信制・単位制普通科高校「ルネサンス高等学校」を運営しております。様々な専門スクールや企業と連携し、新しいタイプのネット教育を推進しております。

設立 2005年10月
 所在地 東京都中央区



CDNソリューションズ株式会社

<http://www.cdn-sol.co.jp/>

日本における「アカマイ」の中心的な販売代理店として活動すると共に、コンテンツ配信およびアプリケーション高速化サービスをお客様のニーズや環境に合わせて最適な形でご提供しております。

設立 2001年4月
 所在地 東京都港区



株式会社釣りビジョン

<http://www.fishing-v.jp/>

CSデジタル衛星放送、ケーブルテレビ局における「釣りビジョン」の放送・配信、番組の制作および販売をしております。

設立 1998年3月
 所在地 東京都新宿区